

# 第 2 回 運 営 協 議 会 報 告 書

報告年月日 平成 30 年 3 月 25 日 (日)

報 告 者 齊藤 富美子

1. 用務	第2回運営協議会			
2. 日時	平成 30 年 3 月 25 日 (日) 13 : 30 ~ 15 : 10			
3. 会場	アイーナ 6 階 講師控室 1・2			
4. 参加者	県企画室 鎌田 憲光	主査	センター 野澤 日出夫	センター長
	県企画室 目時 麻由	主任	センター 佐々木 明宏	副センター長
	運営委員 中島 清隆	会長 (議長)	センター 櫻井 則彰	事務局長
	運営委員 生田 弘子	副会長	センター 齊藤 富美子	センタースタッフ
	運営委員 加藤 直子	委員		
	運営委員 鈴木 満	委員		
	運営委員 千田 恭平	委員		
5. 議事	第2回運営協議会開催			
	<p>※写真別紙参照</p> <p>環境学習交流センター見学と説明 : 13 : 30 ~ 13 : 50 環境学習交流センター内にて野澤代表がご案内と説明を行った。本日は春休み中で来館者も多かったことから来館者とセンタースタッフのかかわり方など実際の様子を見ていただき事務作業以外の業務についても知っていただくことが出来た。また実際に目にする事によって具体的な感想やアドバイス等を頂いた。</p> <p>●入口にエコはっちゃんのぬいぐるみのような置物をおくなど目につくものを置くことで興味を持ってもらう。</p> <p>●通路側のガラスの部分の有効活用 センター内説明後講師控室に移動 13 : 50 ~ 15 : 10</p> <p>次第</p> <p>1 開会 2 代表理事挨拶 3 両センター評価について 4 議事 1) 両センター事業実績説明 2) 今後の運営に向けて 5 その他 6 閉会</p> <p>以下運営協議会会議録抜粋 (議事録は後程作成します)</p> <p>野澤代表挨拶抜粋</p> <p>本日は、年度終盤のお忙しい中を委員の皆様には、遠路からもご参集いただきまして有難うございます。日頃皆さま方には、私どもの活動に対して深いご理解のもと、ご指導頂いて居りまして、心から感謝申し上げます。</p> <p>本日はこの1年間の評価をお願いする事になります。センター運営に関しましては、県の仕様書に基づいて実行しておりますが、自主事業含めてその進め方について、以前にもお話ししました「MG委員会」(Management&amp;Governance Committee)を設けて要所要所で確認しつつ進めております。</p> <p>個々の活動と致しましても、PDCAを回しながら毎年ステップアップを図り一層充実させたいと思っておりますが、多様な方々を対象としており必ずしも満点の活動にはならない事案もあり、反省点も多くあります。社会情勢に即して変えてゆく環境活動と、基本的には変えずに持続させる環境活動のメリハリをつける事も必要であると思っております。</p>			

本日は、皆様の忌憚のないご意見を多少に関わらず頂戴いたし、今後岩手県における両センター活動の改善の機会と致したく思っております。

本日は宜しくお願ひ致します。

4の議事より会長である中島委員が議長となり議事進行を行った。

4-1) 両センター事業実施状況説明

両センターの事業実施状況について説明。櫻井事務局長より資料1 評価項目について、資料2 環境学習交流センター、資料3 地球温暖化防止活動推進センターについて説明。

委員の方より質問

千田委員：

- ・事業の評価をすべて理解するのはとても難しく理解しようと努力し評価した。
- ・この評価のやり方がいいかどうか県の方にもお伝えしたい。

加藤委員：

- ・千田委員の御意見にもあったように評価方法が難しく点数がつけられないが自分なりに評価した。
- ・環境企画展の広がりをするためには展示期間はどのくらいですか？⇒1ヶ月程度です。(桜井)
- ・展示した企業の方はどのような様子か見に来られることはありますか？⇒写真を撮りに来たりすることがある。(桜井)
- ・環パイが環境学習を中心にしていかなければならない。
- ・学校への広がりが必要だけれど学校は忙しく防ごう隊取り組み校が増えないのは当然かもしれない。環境がこれだけ騒がれているのみ環境副読本を知らない先生もいる。学校に定着していれば防ごう隊の取り組みも増えるのではと思うので懲りずに続けてほしい。

生田委員：

- ・この評価方法についてはお二人の委員と同じ気持ちです。
- ・事業については継続とカットでメリハリをつけた方がスムーズにいくのではないかと。
- ・指導者を集めるサポーターズミーティングを行っているようですが将来的には子供たちのエコクラブを全体的に集めるようになるのでしょうか？⇒エコクラブを全体的に集めるのは各クラブにバスを借りたりする予算がなく難しいと思う。

各地の活動を取り上げて紹介するなどしてはどうですか。取り上げて情報発信することによって子供たちの励みになると思います。⇒次年度の計画は前年度の12月頃にはプログラムが決定するので早めに動くことが大事。(野澤代表)

加藤委員：

- ・沿岸部では人口が減少し、5,6年生は塾やスポ少、エコクラブの活動で忙しい。中学校になるとクラブを選択しなければならぬが私はその時の先生との出会いで生物倶楽部に入った。それが今の活動に活かしている。

鈴木委員：スカイプにて

音量が低くて全然聞こえませんでした。

4-2) 今後の運営について

千田委員：防ごう隊の取り組み校が目標60に対して46校ということについて教育委員会への働きかけをおこなって防ごう隊ノートを全校に送付してはどうか？それとも働きかけを行ったうえでこの数字なのでしょう。⇒教育委員会を通して防ごう隊参加校を募っている。行きますという学校にのみノートを送付している。今後わんこ節電所にも防ごう隊取り組みコーナーを設け取り組んでいる学校名を載せるなどして行きたい(岩手県目時主任)

加藤委員：

- ・岩手日報等新聞を活用し温暖化防止コーナーを作ってセンターからワンポイントレッスンのようなわかりやすい情報の発信が出来ればよいと思う。
- ・テレビのニュースの最後に発信コーナー等

生田委員：

	<p>遠野市の上郷小学校の防ごう隊発表も日報に載せてほしい。載ればほかの子供たちの励みになる。 ⇒記者クラブへは投げ込みを行ったが取り上げてはもらえなかった。 生田委員：やはりそういった情報発信コーナーがあればいいですね。 岩手県鎌田憲光主査人事異動のため次年度は、成田雄氣さんが担当。評価については成田さんあて送付の事。 締め切りは4月6日</p>
6. 特記事項	無し
7. 概要・所感	<p>平成 29 年度第二回目の運営協議会はセンター内にて現在の展示状況や今後の展開について小沢代表より説明を行いました。委員の方々の理解を深めていただくための新たな試みでもあり春休み中の日曜日という来館者で賑わうセンターが抱える部分がよりリアルに見えたのではないかと思います。委員の方よりセンターという交流の施設に対する具体的なアドバイスが出されました。かなりの敷地面積を持つセンターを有効活用することが求められています。</p> <p>業務実施状況については、たくさんの事業を少ない時間で理解し評価することの難しさが委員の皆様から伝えられました。委員の皆様には評価をしなければならない立場を超えセンター事業についてアドバイスを頂くことが出来ました。前例踏襲にならないセンター運営を心がけ、次年度に向けて気持ちも新たに出発しなければと感じた運営協議会でした。</p>

#### 第二回運営協議会議事録

日時：平成 30 年 3 月 25 日（日）13：30～15：10

場所：センター内展示の見学後アイーナ 6 階講師控え室 1,2

参加者：11 名

運営委員 中島 清隆氏 会長（議長）

運営委員 生田 弘子氏 副会長

運営委員 加藤 直子氏 委員

運営委員 千田 恭平氏

運営委員 鈴木 満氏（スカイプにて参加）

県企画室 鎌田 憲光 主査

県企画室 目時 麻由 主任

センター 野澤 日出夫 センター長

センター 佐々木 明宏 副センター長

センター 櫻井 則彰 事務局長

センター 齊藤 富美子 センタースタッフ

#### 【次第】

1 開会

2 代表理事挨拶

3 両センター評価について

4 議事

1) 両センター事業実績説明

2) 今後の運営に向けて

5 その他

6 閉会

1 開会の挨拶 櫻井則彰事務局長

2 代表挨拶 野澤日出夫センター長

挨拶内容

本日は、年度終盤のお忙しい中を委員の皆様には、遠路からもご参集いただきまして有難うございま

す。日頃皆さま方には、私どもの活動に対して深いご理解のもと、ご指導頂いて居りまして、心から感謝申し上げます。今回もお仕事のご都合で鈴木満委員はスカイプでのご参加で、お時間を頂きました。また、日頃協働して居ります県当局からもオブザーバー出席を頂いて居ります。

両センター受託団体であります「環境パートナーシップいわて」は、県民の環境への意識を高めるために、地道な活動であります但し県内4つの広域振興局を意識しつつ、広く活動の場を広げる努力を重ねてきております。また、全ての活動に於いてはスタッフの行動を含めて安全を第一に、事前のリスクチェックをマニュアル化して取り組んでおります。

幸い昨年度も無事故で活動できましたが、今後も理事・スタッフ一同、一層気を引き締めて参りたいと思っております。

本日はこの1年間の評価をお願いする事になります。センター運営に関しましては、県の仕様書に基づいて実行しておりますが、自主事業含めてその進め方について、以前にもお話しいたしました「MG委員会」(Management&Governance Committee)を設けて要所要所で確認しつつ進めております。

個々の活動と致しましても、PDCAを回しながら毎年ステップアップを図り一層充実させたいと思っておりますが、多様な方々を対象としており必ずしも満点の活動にはならない事案もあり、反省点も多くあります。社会情勢に即して変えてゆく環境活動と、基本的には変えずに持続させる環境活動のメリハリをつける事も必要であると思っております。

昨年も申し上げましたが、地球温暖化対策・気候変動対策に関しましては、COP21パリ協定の達成に向けて、世界はますます急激な動きを見せています。すなわち今世紀後半には、脱炭素社会・化石エネルギーゼロを目指すことで、段階的に大幅な削減を進める事となっています。特に原発や環境負荷の高い石炭火力発電所は、中国を含め世界の潮流として廃止される方向にあります。日本に於いては、3.11震災の原発事故以来、政府が主導して安いコストの電力の為に、原発再稼働と共に、現在47基・2200万キロワットもの石炭火力発電所新設計画を進めていて、この事が政界や産業界・社会全体の脱炭素の意識を低下させているように思われ、海外からの批判の目は厳しさを増しています。

パリ協定後2016年にCOP22がモロッコ・マラケシュで開催され、パリ協定実現にむけて、非国家主体での具体的で着実な行動の進展を図ることが約束されました。都市・地域・産業・金融・投資が政府とのパートナーシップで取り組む、「マラケシュ・パートナーシップ」であります。昨年のCOP23以降EU諸国はでこの達成のため「世界首長誓約」のもとに多くの都市・地域に於いて首長が将来目標を宣誓して取り組んで居り、

パリ協定脱退を宣言したトランプ政権下においても、「We Are Still in !!」(我々はパリ協定にとどまる)と宣誓する州はカルフォルニア始め15州・ニューヨークをはじめとする455都市、1747の企業、325の大学などが現在賛同して取組んでいて、アメリカに於いても決して停滞することなく進展しています。

日本に於いては、経済優先、その為のエネルギーミックスが政府の方針であり、このままでは世界の趨勢から大きく立ち遅れ、多大なギャップの負荷を次世代に引き継ぐ事となってしまいます。

その様な中で、EUからの働き掛けもあり「世界首長誓約/日本」が名古屋大学竹内恒夫教授を中心に立ち上がっています。この運動を推進するため、先日「プラチナ構想ネットワーク」の会長である小宮山宏元東大総長を訪問して、プラチナ構想と一体のものとして活動することを提言・確認いたしました。「プラチナ構想ネットワーク」の先進的自治体会員は、現在全国167、岩手県に於いては、達増県知事・一関市長・遠野市長・花巻市長が会員であり、私も特別会員であります。今後このネットワークメンバーを中心に県内市町村の他の首長さん方へ働きかけを行い、6月24日(日)開催の定時総会付帯のイベントとして、「世界首長誓約/日本」を岩手で推進するため、竹内教授をお呼びして講演会開催を計画しております。

本日は、皆様の忌憚のないご意見を多少に関わらず頂戴いたし、今後岩手県における両センター活動の改善の機会と致したく思っております。

本日は宜しくお願い致します。

#### 4 議事

ここからは会長である中島清隆氏が司会

中島議長：

両センターの業務実施状況について説明をお願いいたします。

櫻井事務局長：

評価項目資料 1 評価シート環境学習交流センター資料 2、地球温暖化防止活動推進センター資料 3 について第一回目 12 月 25 日以降の業務実施状況特筆すべきところの説明を行った。

中島議長：

両センターの業務実施状況について御説明頂きました。業務実施状況についての御意見ご質問ありましたらどうかお願いします。

千田委員：

評価の前に県の担当者の方からは税金使っているから厳しく評価をしてくれと言われそれを真に受けこれは A の評価はつけてはだめなのかなと思って B と C の評価をしたところですが、実際のところ限られた人数で岩手県という広い土地の中で正直よくやっているなど思っています。ただあまり評価を高くするとこれでいいになってしまうのもダメなのでトヨタのように常に改善を意識してやっていただければいいのかなどということでは B と C をつけさせていただきました。ご説明にもありましたように、非常にイベントの数も多いし、これをわずか数十分の説明で一つ一つ理解するのは本当に難しい。私は評価することを苦しみました。わからないところで A にするのか、B にするのか、C にするのか実際に現場にも立ち会っていませんし、わからないながらでつけてしまったところも多々あります。本来であれば一つ一つのイベント企画について説明をいただきながら質問をして参加者の満足度はどうだったのかをお聞きしながらチェックしていきたい。ただそういう時間もありませんし年に 1,2 回ここにきて一時間前後これだけの事業内容のご説明を聞いて評価するのは苦しいし難しい。今後もこのような形でやっていくのかなと思うとやや憂鬱な感じもしているところです。このやり方が良いのかも含めて考えていただきたい。ただ実際、会計チェックに関してはかなり時間をかけてきちんとやられているようなので監事の方と同じように評価員もそういう時間をとっていただいて一日でも二日でも一つ一つについて質問をしながら課題を見つけて行っていければと思います。

今言ったような形で評価委員、審議委員の一人としてこのような思いであるということを理解していただき反映していただければと思っています。

加藤委員：

環境企画展について、先ほど見せていただきましたが、企業さんたちの出店が増えているような気がします。その広がり他に口コミでつながっていくと、じゃ我が社もという可能性があるのかなと見ています。展示期間はどのくらいでしょうか。⇒一か月くらいです。

展示している間に企業さんからこうしたい、ああしたいというようなアプローチは無いのですか？⇒写真を撮りに来たりしている。

展示している方の反応が知りたい。展示したその後「わが社はこうなりましたよ」ということが知りたいなと思いました。評価項目が前回から変わったことに非常に戸惑っておりましてこういう難しいこと、自分が点数をつけられるのかなと戸惑っています。私なりに評価はつけさせていただきました。環境パートナーシップが環境学習を中心にやっていくというところは外されない部分なのでなぜ環境学習をやっつけていかなければならないのかというと、例えば防ごう隊は取り組み校がだんだん減っていく、学校は忙しくてそういうことを事前学習から事後学習までやっていられないというところが垣間見えているのでなかなかふえないだろうとおもう。温暖化が騒がれて環境汚染、自然破壊これだけ騒がれているのに学校だけのんびりしているわけにはいかないと思う。北東北 3 県でつくった環境読本は引き続き先生から先生に伝わると嬉しい。環境問題のコアみたいなものが網羅されていて子供に伝えやすいものになっている。それを学校の先生が知らないのはもったいない。学校で定着していれば防ごう隊も増えていくのではないかと思う。子どもの興味は動いているものに対して敏感でそこを伸ばしてやるのが大人の役目なはずなのにそういうチャンスをシャットアウトしているようなのでそこは改善していかなければならないと思う。防ごう隊も減っていくかもしれないが懲りずに続けていただきたい。

生田委員：

千田委員、加藤委員からありましたようにお二人の胸の内は私も非常によくわかります。私が評価しているのかといった感じを持ちますし、お二人からありましたように環境というキーワードの中で幅広い事業をこなして大変なことだと思う。私としては代表からもありましたように継続していくべき事業とカットしていく事業のメリハリをつけていけば事業としてもスムーズにいくような形になるので

はと思います。

非常に悩むところではありますが子供たちのエコクラブに関して指導者を集めて一所懸命やっているようですが、今は指導者を集めてやっているが将来的には全体的に集めてと考えているのかお聞きしたい。⇒全体を集めることは予算的に難しいようです。今はかかわる大人の情報交換をメインにしてやっている。子どもたちの各地で活動している団体をどうこうするというのではないのですね。⇒全体で集めて何かをすることは無理ですが、ただし活動などを紹介してほかの団体に学んでもらうことはできる。

ほかの地区はこういう活動をしているよという情報を収集して取り上げてくださるといいのかなと思います。自分たちではやっているのだけれど、中央には出られない、子供たち自身も行くのは大変なのでやっていることを拾ってくださると子供たちの励みになる。子供たちの情報の仲介をやっていただけるといいなと思います。

学校現場の環境副読本の話ですが、私たちも現場にいて知らない人と知っている人がいる。意識がある程度環境にちょっとでもある先生は環境読本を見ています。ただし、いいことを書いてあるのだけれど子供たちを活動の場に引っぱっていく時間的なことがなかなか取れない。活動まではいかないことがある。学校現場と環境活動の時間がうまくとれるようにするにはどうしたらよいか、総合学習の時間も削られてきているので子どもたちも川に連れていくのが大変です。学校現場にこういう時間を入れていただくようお願いしないと現状難しいということがあります。

野澤代表：

子供たちのリーダー的な人が集まって発表し合う形もいいかなと思っています。

加藤委員：

沿岸部は震災後人口が減っている。スポ少、塾、エコクラブ等子供の取り合いになってしまう。2月17日バードウォッチングを行った。自分の目で見ようという企画を行ったが5,6年生はいろいろあってほとんど参加しない。3年生以下、幼稚園の参加が多い。ふと考えると、私がこのような道が決まったと思ったのは中学校の時クラブを選ばなければならなかった時です。その時に生物倶楽部の先生との出会いがあって今に至っている。中学校の部活に外部の指導者を入れるようになった。(スポーツ関係の指導者)学校に倶楽部の指導者としてやってみることをお願いしてみたが、虫触れる子なんて言われてしまった。こういう倶楽部をやってみませんかといった働きかけも必要かなと思っています。学校から引き出すのではなく入り込むことも必要かなと思っています。

鈴木委員：スカイプで参加

理念を共有しつつ、行政を補完する、行政のできないところを行う。選択と集中、代表理事がおっしゃったメリハリの形の方向性は評価できると思っています。これは全体の話です。

資料1の新たに加わった組織評価に関しては認定NPOになったことによって県から二重の評価を受けることになって重複評価という無駄が多いことなのでこれは一本化するために最小限の評価にされてはどうかと思います。次年度どうなるのか。

A4にさせていただいて前回よりわかりやすくなってありがたいと思っています。その中で皆さんの行動力を見ながら評価しますが、広い県土で子どもたちの取り合いが起きていることがよくわかりました。より効率的な情報伝達、教育効果を目指すということであると、教員の方々、これも行政との連携協力、どうしたら子どもたちの時間をより有益にかつ効果的に使えるのかという議論は結構中心的な課題なのかなという印象を受けました。以上です。

中島議長：

選択と集中の必要性。認定NPOになって評価の在り方が変わってきた中で、教員他団体との連携の必要性について御意見いただきました。

中島議長：

すでにお時間となってしまいましたが最後両センターの運営についてこれだけは伝えておきたいということがありますらお願いします。

千田委員：学校の副読本のお話が出てきましたが目標の60校に対して46校ということですが一つのやり方として県教委の方からすべての学校にサンプルを一冊送ることもよいのではと思いますがどうなのでしょう。それともすでに行っているのでしょうか。

目時主任：

ノートに関しては全校に配っているわけではなく参加校に発送している。参加していない学校に関し

ては何を行っているのかわからないということもありまして、次年度からいわてわんこ節電所の中に防ごう隊を組み込みたいと思っている。取り組み校を公開して取り組んでいないところにプレッシャーを与えてみようかなと考えています。

千田委員：

センターを拝見し、手直しをするということでしたが、民間の感覚だと坪いくらの感覚なのですがあれくらい広いスペースがもったいない感じがした。特に常時使われていない部分のスペースがもったいない。来館者の導線、外から見た感じ、シンボリックなものは何か。企業展示は1社だけだったが工藤建設、リクシル等商品説明などを年間の中にとりこんでみてはどうか。

加藤委員：

岩手日報に温暖化防止コーナー等をお願いしてみてもどうか。センターから一口メモみたいなものがあるといい。わかりやすく、小学生でもわかるように一週間に1回でも掲載してもらえるといい。

テレビ等みんなの目につくところで発信できる工夫がほしいなと思っています。

生田委員：

遠野上郷小学校地球温暖化の防ごう隊で発表していましたがそのような発表も日報などに載せてほしいなと思いました。その頑張りを見ることによってほかの子供たちの励みになるのではと思います。

県の担当者に反したところ記者クラブには投げ込みしているとのこと。新聞には載らなかった。乗らなかったところを見るとそういうコーナーが無いからですよね。やはりそういうコーナーがあるといいなと思います。環境にかかわるちょっとしたコーナーがほしいなと思ったところでした。

中島議長：

貴重な御意見を委員の皆様から頂きました。今後の両センター運営に活かさせていただきますよう県と受託団体環境パートナーシップにはお願いいたします。

本日協議会の前に両センターの展示内容を拝見、説明をいただいているいろいろ試行錯誤の積み重ねの中で、現在のような形となっている様子、今まで協議会の中では様々な活動について毎年度御説明をいただきましたが、展示内容について改めてご説明をいただきながら現在までの取り組みを知ることが出来たとともに、又、様々な可能性、展開の仕方のご意見の中にもありましたがまたありうると思います。世界の状況が変わっていく中でどのような展開を両センターが行っていけるか、限られたスタンスの中でこれまでされてきたことをいかに続けていきながら新たな展開の中にどのように関心を持っていただけるか、大変かと思いますが、岩手県、企業、広域振興協局との連携、パートナーシップを大事にしていって続けていっていただければと思います。

櫻井事務局長；

評価を委員の皆様にお願ひしなければなりません。期日は4月6日までにお願ひします。